

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.838 2024

2024年7月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜

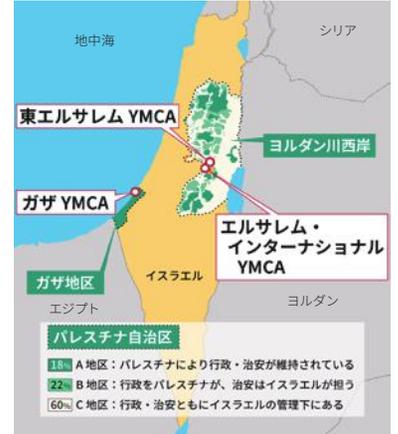


分離壁に囲まれた町

パレスチナ自治区
ヨルダン川西岸で活動するYMCA

ガザから約70km。「パレスチナ自治区ヨルダン川西岸」は、土地の約6割をイスラエルの支配下に置かれ、街中が多数の「分離壁」で分断されている地区です。

東エルサレムYMCAは1948年、パレスチナ難民支援のために設立され、今も紛争で負傷した青少年のリハビリや職業訓練、女性の自立支援のほか、水泳やキャンプなどのプログラムを提供して青少年の育成に取り組んでおり、日本のYMCAとも長く交流を続けています。近況を尋ねました。



■東エルサレムYMCA総理事 ピーター・ナシル



今、ガザで起きている殺りくと破壊は、エルサレムとヨルダン川西岸地区に住むすべてのパレスチナ人にとっての恐怖です。私たちは長く紛争を経験してきましたが、これほどまでに悲惨な日々はありませんでした。ガザとは物理的な往来は禁じられていますが、私たちの心の中にはガザがあります。これまでに殺された数万の人びとは私たちと同じパレスチナ人です。一人ひとりの人生と夢が打ち砕かれるたびに、私たちの心も粉々に砕け散る思いです。

私たちの住むエルサレムとヨルダン川西岸地区内では爆撃はないものの、イスラエル軍によって移動が制限され、監視され、暴力が激しくなっています。女性や子どもを含む数千人が逮捕され、死者数も増えています。こうした状況は、YMCAの職員やプログラムにも少なからぬ影響を及ぼしていますが、同時にYMCAの働きはこれまで以上に重要になっています。子どもや若者は、民族のレッテルや政治的圧力から解放され、自由に過ごせる安全な場所を必要としています。ですからどんな恐怖と不安の中にあってもYMCAは、情熱を持って強く立ち上がり、光を見失うことなく、より良い未来を創りだすために歩み続けるしかないのです。

「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」（ヨハネによる福音書1:5）

私たちが運営している職業訓練校には、来年も多数の青少年が入学を希望しています。紛争で負傷した青年や障がいのある方のためのリハビリテーションプログラムも、この混乱の中でニーズが増えています。私たちは、イスラエル軍による逮捕・拘束から釈放された後のトラウマを抱えた子どもたちの支援もしていますが、悲しいことに、拘留されている子どもの数は増え続けています。また長引く戦争によって家計が悪化し、救済を必要とする家庭が増えたため今年1月には、47,000本のオリーブの木を植え、750以上の農家の土地と生計を維持できるように支援しました。

またエルサレム、ベツレヘム、ラマラの3カ所で運営しているコミュニティーセンターでは、いずれもスポーツ等のプログラムを継続しており、夏にはキャンプや水泳教室も予定しています。周辺の治安状況に留意する必要があるのですが、YMCAの会館内は安全です。子どもたちを恐怖や憎しみから守り、できる限り普通の成長に近づけるように養育することが私たちの義務です。子どもたちとその家族が伸び伸びとした夏を過ごせるよう、参加費を下げて門戸を広げていく予定です。

パレスチナの子どもたちは、水泳やサッカー、バスケットボール、空手、芸術、音楽の勉強が大好きです。彼らは世界の子どもたちと同様に、子どもとしての権利が守られなければなりません。子どもたちまでもが紛争によって憎しみを募らせるのではなく、自分自身や家族、地域社会のためにより良いことをする意欲を持てるように。私たちYMCAは子どもに必要な成長の機会を提供し、子どもらしく過ごせるよう願って、できる限りの努力をしています。そして私たち自身もまた、こうした活動の中で子どもたちの笑顔を見るときこそ、この苦境を乗り越えられるという希望を感じるのです。

「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」（マタイによる福音書4:16）

（まとめ・編集部）

▼パレスチナの詳細はこちらから

<https://www.ymcajapan.org/ymca-works-for-peace-20231007/>



前途洋々～可能性は無限大～

第55回全国YMCAリーダー研修会

「第55回全国YMCAリーダー研修会」が5月4～6日、国立岩手山青少年交流の家で開催され、全国のユースボランティアリーダー約120人が集いました。主管は盛岡YMCA。16人のリーダーが実行委員会を組織し、一年以上前から準備を進めてきました。実行委員長を務めた前川優汰さんに報告を聞きました。

今回の研修会のテーマは「前途洋々～可能性は無限大～」。私を含む実行委員16人で長い時間をかけて考えたものです。普段リーダーとして活動する中で私たちは、「もっと子どもたちの気持ちに寄り添えるようになりたい」「もっと遊びを盛り上げられるようになりたい」と思っています。同じ思いをもつ全国のリーダーたちが、遊び方や考え方の「引き出し」を増やせる研修会にしたい。そんな思いを込めたテーマです。

1日目には、「理想のリーダーとは？」についてグループで話し合い、2日目には5つのワークショップを行いました。発想力を豊かにするための「クリエイティブワークショップ」、相手の思いを引き出す「コミュニケーションワークショップ」、グループで協力する「チームビルディングワークショップ」などで、5つの内2つを選択して参加してもらいました。

さらに3日間を通して各グループに「遊びづくり」の課題を課し、3日目



には作った遊びを披露しました。ユニバーサルデザインのカードゲームや、みんなで親しめる歌など、多様な遊びが作り出されました。ほかにも遊びの構成や盛り上げ方を学ぶなど、3日間でさまざまな「引き出し」を増やしました。

各所属YMCAに戻ったリーダーたちが、この「引き出し」を精一杯発揮し、子どもたちの無限の可能性を引き出していけるよう、挑戦し続けていくことを願っています。委員長として「みつかる。つながる。よくなっていく。」、かけがえのない時を分かち合えたことに感謝しています。

盛岡YMCA 前川 優汰 (リーダーネーム：ジンベエ)

ウクライナ支援活動報告

ウクライナ東部のドネツクから2022年4月に来日避難し、広島親せき宅に身を寄せて生活していた5人家族が、2024年5月29日に帰国しました。2年前、激戦地から、生後6カ月、3歳、12歳の3人の子の手を引いて命からがら逃げて来た家族で、日本とウクライナとポーランドのYMCAが協力してパスポートの取得や渡航が実現しました。



2年前、来日の際の空港で



今年5月、帰国の空港で

もともと暮らしていたドネツクは今、ロシアの軍事的支配下にあり、家はウクライナ軍に提供しているため帰宅はできず、別の地に新たに居を構えることとなります。「それでもなぜ帰国するのか」と尋ねると、「ウクライナのために帰国しなければならない。このままでは、国が保持できない。子どもも高等教育はウクライナで受けて復興の担い手になってほしい」(父・ディミトロさん)、「家族で何度も話し合いました。家族が一緒にいればそこがわが家です。一日も早く平和になり、また日本に来たいです。お世話になりました」(母・イリーナ)と語ってくれました。

子どもたちの成長した姿に3年目に入った戦争の長さを実感するとともに、日本で経験したことがこれからの人生と、ウクライナの平和の実現に少しでもつながる希望を持ちたいと願います。

日本YMCA同盟 横山 由利亜

静岡YMCA 会員の力で50周年

静岡YMCAは1974年4月、熱海ワイズメンズクラブ10周年を機に「熱海YMCA」として設立されました。2002年に「NPO法人 静岡YMCA」となりましたが、設立当初から専従職員を置かず、ボランティアで運営しています。現在は会員約150人。熱海、沼津、伊東など「ワイズメンズクラブ東日本区 富士山部」のワイズメンが中心となり、キャンプ・スキーなどの野外活動、合唱やダンスなど教養活動のほか、英語のスピーチコンテストなども行っています。2021年の熱海土石流災害では、日本YMCA同盟と協働で避難者に健康プログラムを提供するなど支援活動をしました。

4月28日に行った50周年記念式典は、ウクライナの歌手オクサーナ・ステパニウクさんによるコンサートで華やかに開幕。会員や来賓など115人が出席されました。多くの方に支えられてきた50年に感謝し、ウクライナ支援に50万円、能登半島地震にも募金をしました。次の50年も地域ニーズに応える活動を続けたいと、志を新たに歩みを進めてまいります。

静岡YMCA 栗本 治郎



オクサーナさんと歌う合唱団のみなさん

熊本YMCA 東ティモール駐日大使が来訪



開始し、これまで5回にわたって職員を派遣。サッカー指導や日本語教育のサポートを通じた支援を続けており、東ティモールの若者の研修も受け入れています。

これまでの活動を受けて4月、駐日東ティモール民主共和国特命全権大使のイリディオ・シメネス・ダ・コスタさんが熊本YMCAを訪問し、交流の機会を持ちました。熊本YMCA学院では5つの学科の学生代表が各科の特徴を紹介。イリディオさんは「皆さんのお話を聴き、東ティモールの職業訓練でも、あんなことやこんなことができるのではという思いが湧き上がってきました」と語りました。また、YMCAの職員・会員が同行して熊本県知事、熊本市副市長、阿蘇市長を表敬訪問。熊本ひがしワイズメンズクラブ創立20周年記念例会にも参加されました。 熊本YMCA 中村 賢次郎